

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	連携カリキュラムの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの実践 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校との連携 ・教材の交流 ・児童・生徒の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの検証と改善 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校との連携 ・児童・生徒の交流 ・各校の取組みの交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの総括 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校との連携 ・児童・生徒の交流 ・各校の取組みの交流
確かな学力の育成	授業規律・学力保障の推進	<ol style="list-style-type: none"> 1 落ち着いた気持ちで臨める授業作り <ul style="list-style-type: none"> ・学びと学びあいのある授業作り ・学ぶ姿勢の改善 ・授業10か条の活用 2 研究授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高める研究授業 ・協働化と全員参加の授業を目指す。 3 家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な宿題内容の研究 ・保護者との連携 4 基礎学力を獲得するための「読む力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・躰きの発見、育成方法の研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1 落ち着いた気持ちで臨める授業作り <ul style="list-style-type: none"> ・前年の授業作りの検証と改善 ・学ぶ姿勢の改善 ・授業4か条内容の検証 2 研究授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高める研究授業。協働化と全員参加の授業の検証と改善 ・授業のユニバーサルデザイン化を目指す 3 家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な宿題内容の研究 ・課題を出し切る取り組み ・保護者との連携 4 基礎学力を獲得するための「読む力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学力カルテの作成と活用 ・育成方法の研究と実践 	<ol style="list-style-type: none"> 1 落ち着いた気持ちで臨める授業作り <ul style="list-style-type: none"> ・前年の授業作りの検証と改善 ・学ぶ姿勢の改善 ・授業4か条内容の検証 2 研究授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高める研究授業。協働化と全員参加の授業の検証と改善 ・授業のユニバーサルデザイン化を目指す 3 家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な宿題内容の研究 ・課題を出し切る取り組み ・保護者との連携 4 基礎学力を獲得するための「読む力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学力カルテの作成と活用 ・育成方法の研究と実践
豊かな人間性を育む	人権感覚・共に生きる心の育成	<p>※お互いの違いを認め合う、仲間を大切にする生徒の育成 三年間を見通した学習内容を行う (全校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習・人権講演会 ・一年→国際理解 ・二年→部落問題・職業体験 ・三年→生き方(進路) ・三学年共通→命の学習(食育)・障がい者理解・クラスミーティング・キャリア教育 	<p>※お互いの違いを認め合う、仲間を大切にする生徒の育成 三年間を見通した学習内容の充実 (全校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習・人権講演会 ・一年→国際理解 ・二年→部落問題・職業体験 ・三年→生き方(進路) ・三学年共通→命の学習(食育)・障がい者理解・クラスミーティング・キャリア教育 	<p>※お互いの違いを認め合う、仲間を大切にする生徒の育成 三年間を見通した学習内容の精選・充実 (全校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習・人権講演会 ・一年→国際理解 ・二年→部落問題・職業体験 ・三年→生き方(進路) ・三学年共通→命の学習(食育)・障がい者理解・クラスミーティング・キャリア教育

健康・体力の増進	<p>体力調査の各項目をバランス良く伸ばし子供の基礎体力向上につなげる。行事やレクレーションなど意欲的な活動を通し最後までやり遂げる力。達成感、そして体力向上につなげる。食育を教科学習として行う。PTAの協力による啓発活動を行う。</p>	<p>昼休み運動場での活動を奨励。行事等を通していきいきと生徒が活発に意欲的に活動をする。体育委員を中心に授業はじめの体操・トレーニングにより、補強運動や筋力トレーニングを行い、基礎体力や体力向上させる。体力診断テストの結果から、生徒状況を把握し、授業改善に努める。生徒自身に自分の体力を知らせ、体力向上への意識づけを行う。</p>	<p>体力調査4項目以上で全国平均並みにする。食育の充実（教科学習、委員会活動、部活動等を行う）家庭での食事、運動について協力を得る(啓発活動)。体育の授業での運動量の充実。部活動の一層の推奨。</p>
	<p>支援教育の充実</p>		

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと
概ね良好な結果であった
- ④ 言語事項
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もともと正答率の高かった設問 8二1 8二2 8四1
- ・もともと正答率の低かった設問 8三エ
- ・もともと無解答率の高かった設問
6二 8一1 8二2 8三3
- ・無解答がなかった設問 1一、 2一、 3一・二、 4一、 5一、 7一・二、 8三ア・イ・ウ、 8四1、 8五、 8六3

国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと
概ね良好な結果であった
- ④ 言語事項
大変良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 記述式
良好な結果であった

(無解答率)

良好な結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もともと正答率の高かった設問 2二
- ・もともと正答率の低かった設問 1三
- ・もともと無解答率の高かった設問 3三
- ・無解答がなかった設問 1一、 2一、 2三

分析

国語A、国語Bにおいて、全ての項目で全国を上回っていた。文章の読み取りの力や、漢字の読み書きは、概ね良好な結果であった。これは、毎回の授業において、漢字・語句プリントを使つての復習を実施することにより、基礎的な知識の定着、関心・意欲を高めていることがよい結果につながっていると思われる。

しかし、国語Bにおいて、目的に応じた文章を書くために内容を整理したり、相手に伝わるように書く力が、他の分野より低い結果となっているため、定期テスト等で三百字作文を出題するなど、文章の添削などを通して表現力を高めることが必要であると思われる。

<p>数学A (領域ごと)</p> <p>① 数と式 良好な結果であった</p> <p>② 図形 良好な結果であった</p> <p>③ 関数 良好な結果であった</p> <p>④ 資料の活用 大変良好な結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 良好な結果であった</p> <p>② 短答式 良好な結果であった</p> <p>(無解答率)</p> <p>全体的に無解答率が低く、あきらめず解こうとしている姿勢がうかがえる。</p> <p>(その他)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>学校の特徴的なことについて記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと正答率の高かった設問 1-1 ・もともと正答率の低かった設問 2-1 ・もともと無解答率の高かった設問 11-1 ・もともと無解答率の低かった設問 1-3 1-4 3-1 3-4 4-1 4-2 5-3 5-4 6-1 6-2 7-1 7-2 8 9-1 11-2 12 13 14-1 </div>
--

<p>数学B (領域ごと)</p> <p>① 数と式 良好な結果であった</p> <p>② 図形 大変良好な結果であった</p> <p>③ 関数 概ね良好な結果であった</p> <p>④ 資料の活用 良好な結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 良好な結果であった</p> <p>② 短答式 良好な結果であった</p> <p>③ 記述式 良好な結果であった</p> <p>(無解答率)</p> <p>全体的に無解答率が低く、あきらめず解こうとしている姿勢がうかがえる。</p> <p>(その他)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>学校の特徴的なことについて記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと正答率の高かった設問 2-1 ・もともと正答率の低かった設問 5-2 ・もともと無解答率の高かった設問 1-3 ・もともと無解答率の低かった設問 2-3 3-1 4-1 </div>
--

<p>分析</p> <p>数学 A、数学 B とともに良好な結果であった。</p> <p>数学 A の正答率の低かった設問で、記述式の不等式の設問では、大きさの判断と、『以上・以下』の理解が低かったと思われる。証明の選択式の設問では、証明の必要性和、意味の理解していない比率がやや高かった。</p> <p>数学 B では数学的な表現を用いて説明する力が弱い比率がやや高かった。自分で考え、説明するような問題に接する機会を増やし、自分の意見を発信できる力をつける授業づくりを推進する。</p> <p>総合的には数値は高く、数学を頑張ろうとしている生徒が多い。その理由として、中学1年生時に複数の教員と学習サポーターが授業に入り込み、多くの目で支援していることが考えられる。中1ギャップを解消するとともに、基礎学力の低い層に支援し、低学力層の底上げができています。</p> <p>また、単元ごとに提出物のチェックや、確認テストを行い、形成的評価をしていることがあげられる。</p> <p>無解答率は低く、良好な結果であった。興味・関心を高められる授業ができたと思われる。学校目標における学力向上の取組みが効果をあげていると考えられる。</p>
--

(領域ごと)

- ① 物理的領域 概ね良好な結果であった
- ② 化学的領域 概ね良好な結果であった
- ③ 生物的領域 概ね良好な結果であった
- ④ 地学的領域 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式 概ね良好な結果であった
- ② 短答式 概ね良好な結果であった
- ③ 記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問 7(3)
- ・もっとも正答率の低かった設問 9(2)
- ・もっとも無解答率の高かった設問 9(2)
- ・もっとも無解答率の低かった設問
1(1) 2(1) 2(3) 3(1) 4(1) 5(2) 6(1) 6(3)
7(1) 7(2) 8(2)

分析

全体的に全国平均を上回っており概ね良好な結果だといえるが、領域別にみると差が開いている設問が目立った。地学的領域に関しては大幅に上回っている設問もあり、知識の定着ができています。正答率が低かった問題は主に化学的領域・物理的領域の記述式または計算問題であり、苦手意識を持つ生徒が多いと思われる。化学的領域・物理的領域に関しては反復練習や図等の活用が効果的であるので、小テストの実施や、デジタル教科書の活用により可視化、視覚的支援が必要であると考えられる。

また、無解答率に関しても全国平均より下回っており、分からない問題であっても何とか解こうとする前向きな姿勢が伺える。最も正答率が低かった設問と最も無解答率が高かった設問が一致しているが、この設問は、問題文や資料から推測し記述式で答えるものであった。結果から設問について考察し、さらにそれを文章で表すことが苦手な生徒が多数いると考えられるため、普段から「考察すること」、「自分の考えを書くこと」を取り入れた授業づくりをすることを推進する。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

国語、数学、理科と全教科とも全国の平均以上の成績であり、概ね良好な結果であった。今年度も成績も上がり、これまでの取り組みの効果が上がってきているのではないかと。また無解答率も昨年に較べて、上回り、粘り強く解こうとする力がついてきている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

A 問題、B 問題ともに、学力高位層が増え、学力低位層が減っている。しかし国語 B や理科については考察し、文章に表現する力に課題があるため、各教科ともに表現力をつける授業づくりが必要である。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① 落ち着いた雰囲気の中で授業に臨める環境づくり

毎日を落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組めるように、教員そして生徒の各委員会と協力し、授業規律の確立と改善、そして検証を行う。

東中学校授業4か条の活用

号令係研修会の実施と検証

② 授業改善の取組み

授業研究 学ぶ意欲を高め、学びと学びあいのある授業作りを目指す。

1年間に3回の研究授業を行う。

授業交流週間の実施

1週間から2週間の期間を決め教師同士がお互いの授業を見学し、改善点などについてコメントをする

③ HIT(Higashi Intensive Time)の実施

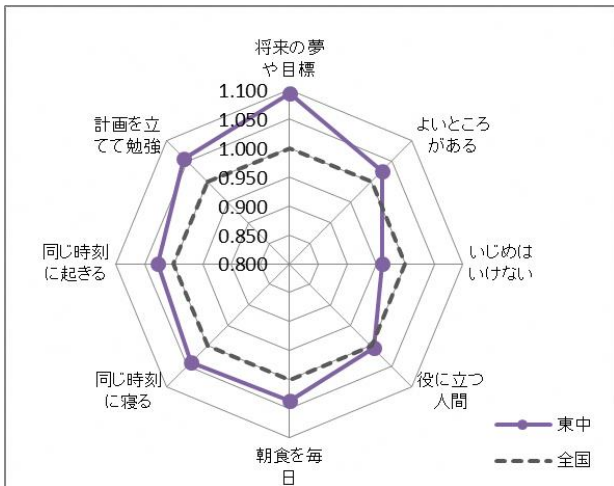
HIT とはテスト1週間前頃からMT 後や学活の時間を使って各教科から基礎的な問題をプリントにし、個人や班で協力し定期テスト対策としておこなうものである。

④ 放課後学習会の実施

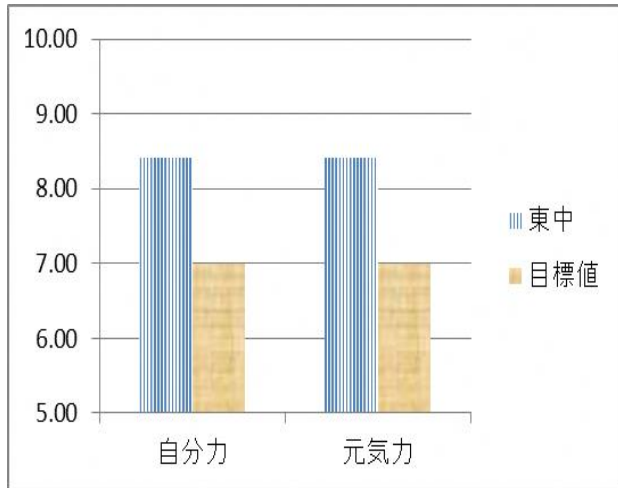
全学年で統一した学習会（週に1回）を放課後に行う。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

自分力、元気力は目標値に比べ、大幅に上回っている。8項目のうち、7項目「よいところがある」、「将来の夢や目標」、「計画を立てて勉強」、「同じ時刻に起きる」、「同じ時刻に寝る」、「朝食を毎日食べる」、「役に立つ人間である」は全国平均を上回っているが、「いじめはいけない」と感じている生徒は全国平均を下回っている。平成29年度に比べて、「よいところがある」、「役に立つ人間である」項目の割合が増加していることから、自尊心が高いことがわかるが、「いじめはいけない」と感じている生徒の割合が低いことから、高くすることが課題である。

取組み

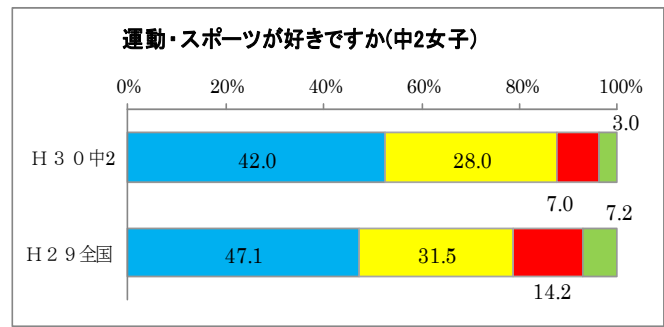
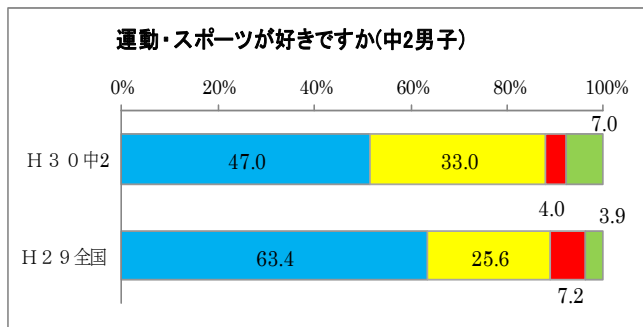
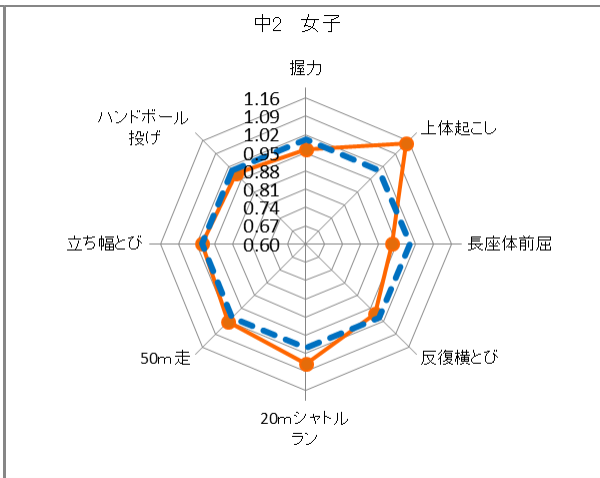
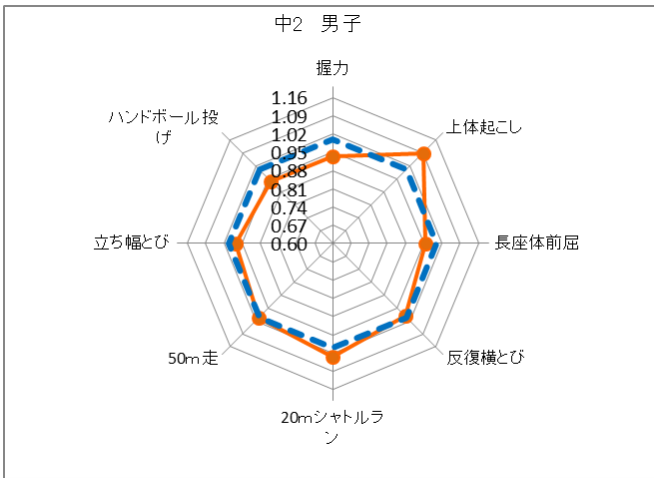
生徒一人ひとりの生活習慣等は、全国平均に比べ高く、将来に対する夢や、目標も高く持っている生徒が多いことから、これからも意識を高く持てるように、指導していくことが大切である。「いじめはいけない」という認識が全国平均よりも減少していることから、例年同じように取り組んでいる、人権・道徳教育を見直し、定着のための「いじめ対策」への取組みを学校全体で推進する。人権教育では、一人ひとりが考えてお互いに協力し、大切にされる教育を推進していく。道徳教育では、次年度から「特別の教科 道徳」として、一人ひとりを認め励ます評価を行い、質の高い道徳科の授業づくりを教職員全体で行っていくことが必要である。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (中2)

女子 (中2)



分析

◎ 総括 ○ 向上した点 ● 課題点

◎全体的に全国平均を下回る結果が見られたが、昨年度よりは結果が向上した。

○中2男子を見ると、上体起こし、20mシャトルランで全国平均を上回る結果が見られた。また50m走では全国平均に近い結果が見られ、筋力、筋持久力、(走力)は全国平均と比べ長けていることが分かった。

●握力、反復横とび、長座体前屈、立ち幅跳び、ハンドボール投げでは全国平均を下回る結果が見られた。筋力、敏捷性、柔軟性、瞬発力、投力などが課題である。特に握力、ハンドボール投げ、長座体前屈が大きく下回り、筋力、投力、柔軟性などの課題が見えた。

○中2女子を見ると、上体起こし、20mシャトルラン、50m走が全国平均を上回る結果が見られた。また、立ち幅とびでは全国平均に近い結果が見られ、筋力、筋持久力、走力、(瞬発力)は全国平均と比べ長けていることが分かった。

●握力、長座体前屈、反復横とび、ハンドボール投げでは全国平均を下回る結果が見られた。特に握力、長座体前屈が大きく下回り、筋力、柔軟性などの課題が見えた。

取組み

体力向上・体づくりには、「楽しく」「やる気」を持ってトレーニングすることが必要である。そのために、昼休みに運動場でボール遊びをはじめとして、外に出て活動することを奨励し、気軽に体を動かすことのできる雰囲気づくりや、体育の授業で授業の初めに体操やトレーニングによる、補強運動や筋力トレーニングを行うことで、より効果的な基礎体力の向上につなげるようにする。

また、体を動かすことでの体力向上と並行して、何事に対しても最後まで粘り強くやりきる力の育成や、家庭・地域と連携し、バランスの良い食生活を送ることができるよう食育にも取組み、健康な体づくりができるようにする。